活動名	団体名	(財)日本ダウン症協会広島支部 えんぜるふぃっしゅ
ダウン症青少年ソーシャルスキルアップ支援事業～ カカオチームのコーヒーサービス研修と実践～	地域	広島県広島市
	代表者	会長　廣瀬　祥子
	支援金額	25万円

活動概要

2005年3月から始まったダウン症青少年のための「ソーシャルスキルアップ支援事業」企画のひとつとして2006年4月から開始。「広島市公共施設での職場体験実習」の前段階として、積み重ねの経験値から「人付き合いのコツを身につけること」を主目的に、中学生以上の会員の通年継続活動を企画運営しています。この活動は、毎月1回の定期的な「コーヒーサービスによる接客練習」に加え、実践の場として、地域イベントや大学祭参加の形で社会参加の機会を得ました。また、学生・社会人がそれぞれの立場で支援を持ち寄る事で実現できる活動として、ボランティア育成・地域活性化に貢献していると認めていただいています。本人たちによる啓発活動ともいえる内容に賛同していただき、活動の場が広がっています。

◆実施時期：　2008年4月1日～2009年3月31日
国際会議場・広島大学（霞キャンパス医学部）・広島県立大学（宇品・三原キャンパス）
広島アンデルセン・広島市心身障害者福祉センター・東区総合福祉センター
東区民文化センター・南区総合福祉センター

◆参加人数：　ダウン症本人：291名
学生・社会人ボランティア：110名
マナー研修講師：アンデルセンサービス能力開発教育チーム 6名
保護者・家族：105名
地域イベント・大学祭のスタッフ：約50人
コーヒーサービスに協力いただいたお客様：約1,300名

参加総人員　1,862名

《マナー研修 ～コーヒーサービス～》

《マナー研修 ～お辞儀の練習～》

《呼び込みちらし配布》

《満員御礼でした》

◆活動が関連する団体等、地域社会等に与えた影響

・カカオチームの体験を経たメンバーが参加する「職場体験実習」へも参加希望する大学生ジョブサポーターが増加し、さらに、自分たちから友人にジョブサポーター勧誘をしてくれる学生が増えた。
・また逆に、職場体験実習のジョブサポーターがカカオチームの活動を知り、ボランティア参加してくれた。
・東区子育て支援広場「ぽっぽひがし」の毎年１回開催の記念イベントについて、今後の継続参加を依頼され、決定した。また、カカオメンバーが余暇活動として結成している音楽グループにも参加依頼をもらうなど、えんぜるふぃっしゅ全体の活動の場を提供してくださる理解者が増えた。
・県立大学三原キャンパスでは、地域住民の皆さんが、このカカオチームのカフェを毎年楽しみにされ、毎年大学祭を訪れる地域の方々が増加傾向にあるとのこと。大学祭が地域のイベントとして定着してきたことに貢献していると、大学事務局から感謝の言葉をいただいた。
・広島大学霞キャンパスでは、大学祭の期間のみならず、常時、医学部保健学科の校舎内廊下に「えんぜふぃっしゅ写真展示」を継続し、ハートのある医療従事者育成と若者への啓発活動を積極的に進めてくださっている。
・安田女子大学・比治山大学でも、先生方が職場体験実習とカカオチームの活動に賛同してくださり、学生さんたちにボランティア参加を呼びかけてくださっている。実際、継続参加する大学生も増えている。

◆苦労した点

【予算について】
ボランティアを継続してもらうために、交通費の補助だけはなんとか続けていたが、活動が活発になり参加者が増える喜びと、メンバー（保護者）の会費徴収額が増える負担感が大きくなる矛盾に悩んできた。

【外部、内部へのＰＲについて】
地域のイベントや大学祭参加については、中心になる担当者の方々へ綿密に趣旨を話して理解を求めた。初めは予想もつかない意外な活動に驚かれるが、継続依頼してくださるようになった。お客さんもリピーターが増えている。ただ、外部よりも身近な会員保護者へ「職場体験実習の前段階として、なぜコーヒーサービスなのか」を伝えることに苦労している。本人にとって積み重ねの大切さを説く以前に、「障害者には無理」と決めつける考え方があるようで、一歩踏み出す勇気を削ぐ、と話す必要がある。

【参加者について】
メンバーの参加人数に合わせて、短期間でボランティア参加者を募集すること。特に、ボランティアは大学生が多いので、定期試験期間中や夏休み中などは、ボランティア参加者を集めることに苦労している。
また、ボランティアには、あくまでもコーヒーサービスはメンバーのソーシャルスキルアップ支援のための手法であることを理解いただき、メンバーそれぞれが少しずつスキルアップできるような声かけやアドバイスを工夫していただくよう、伝えることに時間を割いている。

◆今後の課題・発展の方向性

・ボランティアに継続して参加してもらうこと。特に、学生ボランティアについては、後輩へ引き継いでもらえるよう働きかけたい。そのために、カカオチームの活動は「参加して楽しく、貢献度を感じる」ものにしていかなくてはならないと考えている。合わせて、職場体験実習へもジョブサポーターとして参加してくださるボランティアを、これからも増やしたい。「活動の楽しさ」の要素として、子どもたちとの良い関係が築けることに意義を感じているボランティアが多いことに感謝し、その声に応え続けられるよう努力したい。
・えんぜるふぃっしゅ会員にも、この活動の目的・意義・効果などを解りやすく伝え、中学生以上（カカオチームに参加できる学齢）の会員には、積極的に参加してもらえるよう、そして長く継続できる活動として定着するよう努力を続けたい。
・カカオチームでの研修を経て職場体験実習へ参加したメンバーの中から、一般就労の希望が叶う人が増えるよう、メンバーが希望を持って活動でき、持っている力を発揮できる場を増やしていきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

おかげさまで、マツダ財団から支援をいただけるような活動なら、と参加くださったボランティアさんや、友人も誘って参加くださったボランティアさんが増え、１年間の活動をスムーズに進めることができました。そのため、活動の場も広がり、メンバー本人たちの意欲も高まり、保護者もすすんで応援できた嬉しい１年間でした。

今後も、定期的な活動を継続する中で、メンバーのソーシャルスキルアップを支援するとともに、様々な形で応援してくださる多くの方々の声に応え、もっと活動の場を広げ、ボランティア参加していただきやすい方法を模索したいと考えています。

この活動へ参加し、職場体験実習へ臨んだメンバーの中から、今年度は２人が一般就労できました。職種はいろいろであっても、そこで働く人と人が毎日繰り返し交わすあいさつや笑顔は、どこでも同じ。この活動で身に着けた人づき合いのマナーやコツ、そして仲間と頑張る気力が、一般就労したいという本人の意欲になり、保護者も前向きに応援し続ける勇気になり、嬉しい結果をいただけたと、保護者から感謝の言葉が届きました。

この報告書の最後に嬉しいご報告ができますことを幸せに思います。ありがとうございました。

最後に、貴財団の益々の発展をお祈りし、ご支援に重ねてお礼申し上げます。